

羅針盤

気になる子供の実態把握について～アセスメントシート分析パッケージの活用～

当センター特別支援教育部では、平成27年度に複数の観点に関連付けて子供たちの学習上の困難を把握し、それに対応した指導・支援の方法を一括して提供する「アセスメントシート分析パッケージ」(以下、「分析パッケージ」という)を開発しました。その中から今回は「個別理解シート」の紹介をします。

○「個別理解シート」 個人標準得点が40点以下の観点があった場合、推測される学習上の困難さとそれに対応する指導・支援の内容を「個別理解シート」のコメント欄に自動表示するようにしました。

個別理解シート

表示したいデータ番号 1

番	氏名
1	○○ ○○

標準得点

	① ことばを見つけよう	② 書き写そう	③ 見た数を答えよう	④ 説明を聞いて答えよう	⑤ 形を写そう	⑥ ひらがなを見つけよう	⑦ 聞いた数を答えよう	⑧ 何を絵でしよう
個人得点	5	25	4	0	12	2	18	2
個人標準得点	54.4	53.6	48.1	30.3	54.2	50	46.8	36.7
クラス平均点	5.0	25.0	4.0	0.0	12.0	2.0	18.0	2.0
クラス標準得点	54.4	53.6	48.7	30.9	54.2	47.1	46.8	36.7

アセスメントシートの結果から考えられる学習上の困難さと指導・支援の例(個人標準得点が40点以下の問題がある場合、コメントが表示されます)

観点	④⑧
観点	問題④は、聴覚的な言語理解・記憶に関わる力。問題⑧は、聴覚的な短期記憶に関わる力を見ている。
困難さ	聴覚的な情報入力に困難さがあるため、集団場面や長い説明の際には、話の内容を聞き取れていなかったり、聞いたことを理解したり、記憶したりすることができず、話し合いについていけなかったりすることが予想されます。
指導・支援	聞く活動の際には、注意を喚起し、きちんと注目したのを確認してから指示や説明をしたり、分かりやすい言葉で簡潔に指示をしたり、聞き取りやすい言葉は板書をしたりするなどの配慮が有効であると考えられます。

左図の「個別理解シート」は、問題④「説明を聞いて答えよう」と問題⑧「聞いた数を答えよう」の標準得点が40点以下で、配慮を要するという意味の赤色表示がなされています。

問題④と問題⑧の観点に関連付けた推測される学習上の困難さが表示されます。
 困難さ：「聴覚的な情報入力に困難さがあるため、集団場面や長い説明の際には、話の内容を聞き取れていなかったり、聞いたことを理解したり、記憶したりすることができず、話し合いについていけなかったりすることなどが予想されます」

推測される学習上の困難さに対応する指導・支援の例が表示されます。
 指導・支援：「聞く活動の際には、注意を喚起し、きちんと注目したのを確認してから指示や説明をしたり、分かりやすい言葉で簡潔に指示をしたり、聞き取りやすい言葉は板書をしたりするなどの配慮が有効であると考えられます」

平成30年3月に策定された第3次岡山県特別支援教育推進プランにおいて通常の学級の個と学級集団における適切な実態把握に基づいた授業づくりの重要性が示されました。そこで通常の学級において様々な認知特性を示す子供たちの的確な実態把握ツールとして、ぜひ分析パッケージの活用をお勧めします。全ての児童生徒が「分かる」「できる」授業を展開するには岡山型学習スタンダードに基づく明確な目標設定や教材研究と合わせて実態に基づいた授業づくりを行うことが大切です。ただし、子供の実態把握をする際には、分析パッケージによる実態把握とともに、これまでどおり教員による授業の行動観察を併せて検討し、総合的に実態把握をすることが必要です。その点に留意して、活用するようお願いいたします。詳しくは平成29年3月に作成しましたブックレットを御一読ください

なお、8月9日(木)に実施する「通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり基礎研修講座」では、分析パッケージを活用して授業づくりに取り組まれた小学校の実践発表があります。ぜひご参加いただけたらと考えています。

分析パッケージの活用を希望する学校は、当センター特別支援教育部まで御連絡ください。
 【電話番号 0866-56-9106】 (担当・特別支援教育部)

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho>



「ブックレット」